

# 経営比較分析表（令和2年度決算）

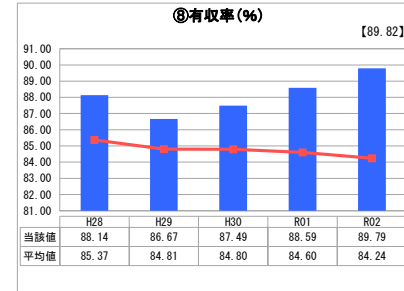
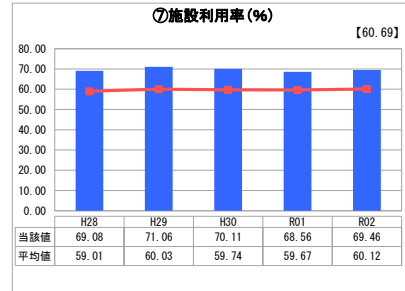
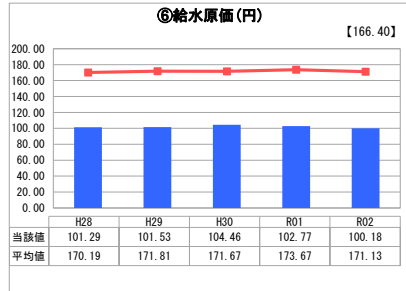
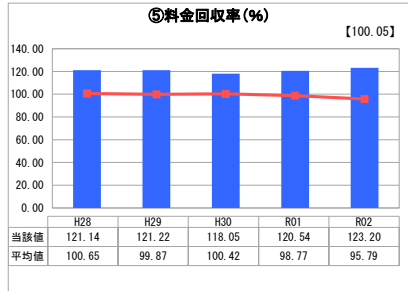
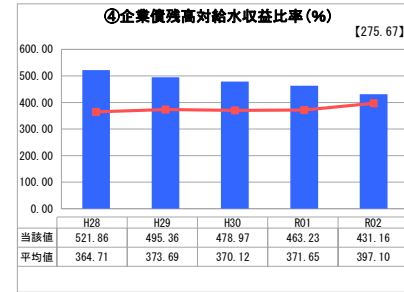
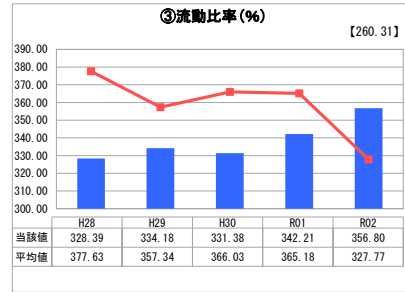
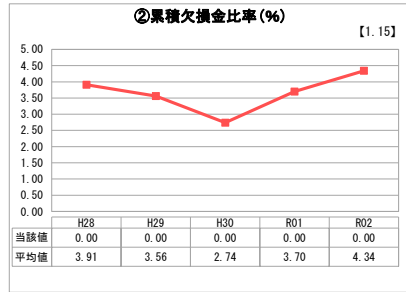
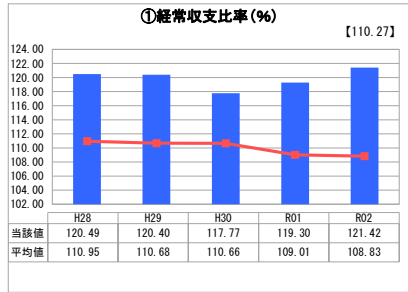
静岡県 吉田町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20㎡当たり家庭料金(円)	
-	69.68	95.39	2,266	

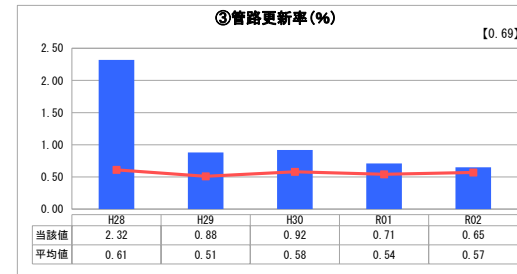
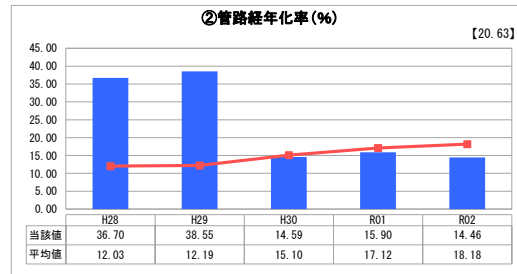
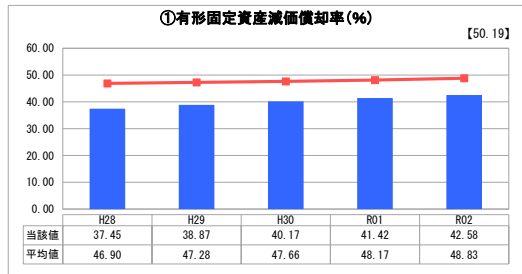
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
29,421	20.73	1,419.25
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
32,095	38.35	836.90

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 令和2年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- 経常収支比率は100%を超え、類似団体平均値を上回っており、良好な数値を維持している。
- 累積欠損金比率は、欠損金が生じていないため継続して0%である。
- 流動比率は300%を超えて推移しており、支払能力は十分に備えている。
- 企業債残高対給水収益比率は、類似団体平均値と比較してやや高い数値となっている。企業債残高については、配水池、浄水池等の耐震化を進めたために起債額が増加した経緯がある。現在は借入額を返済額未満としていることで減少傾向にある。今後は継続して計画的な償還に努めていく。
- 料金回収率は100%を超える水準で推移している。給水に係る費用の全てを給水収益で賄っており、良好な状態である。
- 給水原価は、ほぼ横ばい状態で推移している。水源に恵まれており、給水コストが低く抑えられていることから、類似団体平均値と比較して良好な状態を維持できている。
- 施設利用率は類似団体平均値を上回っており、適切な規模での利用を維持できている。
- 有収率は類似団体平均値を上回っており、経年の推移では上昇傾向にある。配水区域毎に隔年で漏水調査を行うことで、漏水箇所の早期発見と迅速な対応に努めたことによるものであり、引き続き有収率の向上に努め、効率的な経営を推進していく。

### 2. 老朽化の状況について

- 有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値より良好な数値であるが、経年の推移では増加傾向にある。法定耐用年数に近い管路の割合が増加していることを示しており、今後施設や管路の計画的な更新に努める必要がある。
- 管路経年化率は、類似団体平均値より低い数値であり、前年を下回っており、今後も引き続き計画的な更新を推進していくよう努める。なお、平成30年度から総務省の基準に合わせ、対象とする老朽管の年数を20年から40年に変更したことにより、平成29年度以前の数値を大きく下回る結果となっている。
- 管路更新率は類似団体平均値より良好な数値となっているが、施工単価が高い基幹管路の更新に重点を置いて行ったため、低い数値となっている。なお、平成28年度の値は「2.32」ではなく正しくは「0.83」である。

### 全体総括

経営の健全化・効率化の指標は、望ましいとされている数値を満たしており、類似団体平均値と比較しても良好な数値であることから、健全な経営状態であると評価できる。また、継続的に黒字を確保しつつ、企業債残高を減少させており、効率的な事業運営を実現させている。今後は、平成30年度に策定した経営戦略に基づき一層効率的で安定した経営に取り組み、老朽化、耐震化の状況に応じた適切な更新に努めていく。